

第6回日本遺伝学会春の分科会開催報告

本年度の春の分科会は、3月14日（土）に、三島商工会議所で開催されました。参加者は約50名で、関東を中心に、九州や北海道からの参加者もいらっしやり、中学生や高校生、一般の方の参加もありました。今回の分科会は、「若者ステイミュレーション」と題して、国立遺伝学研究所長の近藤滋先生、九州大学名誉教授の佐々木裕之先生、国立遺伝学研究所教授の中村保一先生から若手研究者に、生物学的研究の醍醐味を伝えて頂きました。近藤先生からは、生き物の多くの模様がチューリングパターンによって決定されているという興味深いご研究のお話に加え、生物学の世界には、まだまだたくさんの謎が満ち溢れており、まずはそれに気がつき、柔軟な発想でアプローチすることが大事であるというメッセージを頂きました。佐々木先生からは、三毛猫のオレンジ色の毛色を決定している遺伝子の実体を明らかにした最近のご研究成果についてお話に加え、研究への熱意をオープンにし、開かれたサイエンスを行うことで、研究がどんどん広がっていくことを教えていただきました。また中村先生からは、最新技術を用いた猫や犬のゲノムDNA解析を通して、これまで解読できなかった領域の配列がわかることで、動物のより深い理解につながる可能性のある発見のお話や、伴侶動物のプレジジョンメディシンを目指す壮大なご計画、そして病気の原因遺伝子の正確なカタログができれば、適切なブリーディングにより遺伝病を根絶できる夢のある将来展望を伺いました。どのご講演も、若手のみならず参加者全員が、研究の楽しさ、大切さを再認識できる素晴らしいもので、たくさんの質問が出ました。また、ショートトークおよびポスター発表では、始めたばかりの研究も含め、10件の発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。とくに発表経験が少ない学生にとって、異分野の先生や先輩との交流は非常に良い経験になったと思います。今年度も、ポスター発表の場を、交流の場として、飲み物やお菓子を用意し、長めに時間をとりました。各自有意義な時間を過ごしていただけたと思っています。

鶴木元香、大学保一（遺伝学普及・教育担当幹事）



講演の様子



ポスター発表

参加者の皆様



佐々木先生



近藤所長



中村先生



角谷会長